

地域創造学類カリキュラムマップ(人と自然の共生プログラム専門科目)(令和4年度以降)

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される現代的諸課題に目を向け、それらを解決できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会、グローバルな共生社会、しなやかで折れない地域、将来にわたって持続発展する地域を実現するため、地域創造学の専門的知識と技術を修得し、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに意欲と責任をもって参加できる人材を、金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)に立脚して育成する。また、海外の地域創造情報を自ら英語で収集し発信できる人材を育成する。金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、次の学修成果を達成した者に学士(地域創造学)の学位を授与する。		
人と自然の共生プログラムの学習成果			
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための地域創造学の専門的知識を修得している。		
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。	
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。	
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。	
	調査・分析方法	地域の諸課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。	
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力と他者を繋げ合意形成に導くコーディネーション能力を身につけている。	
	④ 関心・意欲	地域や社会の諸問題を生活から制度・政策まで多角的に分析し考察できる。	
⑤ 態度	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。		
⑥ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。		

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	<p>地域創造学類は、学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり階層的な教育課程を編成し実施する。特に、地域課題科目群と地域創造科目群の選択的組み合わせによるプログラム制を導入し、学生の学修目標に沿った履修を実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域を知る基礎的な方法やリテラシーを学ぶ学類基礎科目群 2 地域とその諸問題を理解し、専門的知識を修得するための地域課題科目群 3 学生自身の将来像を意識させ、地域づくりのリーダーとしての素養を修得する地域創造科目群 4 地域を多面的に理解する調査や分析の方法を修得する演習及び実習科目群 5 多様な地域課題に対処する能力を高め、総合性を担保するための高年次の地域創造学特別演習 6 修得した知識と方法を統合的に発揮して自ら発見した地域課題に向かい合う卒業研究 <p>加えて、地域課題解決に実践的に取り組むための現地実習やインターンシップを配置し、フィールドワークによるプロジェクト学習や問題解決学習の手法を導入した実践的学修機会を用意する。また、学生の能動的学習を積極的に促すアクティブラーニングの手法を取り入れるとともに、外国語による地域創造に関する情報の収集と発信機会を提供する。</p>
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	単位数	学年	学習成果							
						理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35A01	環境経済論Ⅰ	環境問題への経済学的アプローチの基礎を学び、特に自然資本と人工資本の関係から環境問題を理解する視点を身につける。	環境経済学入門、自然資本と人工資本	1	2年	○	◎				○		
35A02	環境経済論Ⅱ	環境問題への経済学的アプローチの基礎を学び、特に自然資本と人工資本の関係から環境問題を理解する視点を身につける。	環境経済学入門、自然資本と人工資本	1	2年	○	◎				○		
35A03	食環境学	食環境を構成する要素である栄養素、食品成分、食品表示などについての基礎知識を修得する。	食環境、栄養、食品	2	2年		◎	○			○	○	
35A04	栄養生理学	糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミンの栄養的意義、および糖質、脂質、タンパク質、エネルギーの代謝、スポーツや病態時の栄養摂取等について修得し、基礎的な栄養管理ができるようになる。	栄養、代謝、栄養管理	2	3年		◎	○			○	○	
35A05	自然環境基礎論	日本と世界の自然環境・自然地理に関する基礎的な知識を取得する	自然地理学、地図、気圏、水圏、生物圏	2	2年	○	◎						○
35A06	自然環境と社会	自然環境に対する人間社会の影響と、人間社会に対する自然環境の影響のそれぞれについて、理解をするための方法論について学ぶ。	自然環境、社会環境、ジオパーク	2	2年	○	◎	○					○
35A07	自然環境論A	自然環境の変動について、主に第四紀に着目しながら、全球スケールからローカルスケールまでの影響を理解する。	自然環境変動、第四紀、氷期間氷期サイクル	1	2年		◎					○	
35A08	自然環境論B	環境と生物分布の関係について、論文を通して学ぶ	地生態学、生物分布	1	2年		◎					○	
35A09	資源活用と環境共生	地域が有する資源を活用し、より豊かな生活創出、優位でかつ持続的な産業活動や地域形成、教育・文化的活動などを検討していくための考え方、取り組み方や、その際に課題となる点などを地理学的研究などを援用しながら学ぶ。地域資源についてパンフレット・紹介マップを実際に作成し、報告・検討をする機会を通じて、標的市場や人々に効果的に情報を伝える技能を身につける。	地域、地理学、資源活用・管理、生活文化、持続可能性、真正性、マーケティング、ブランド	2	2年		○		○		◎	○	
35A10	防災・減災と地理学	自然災害と地理的環境との関係性について理解する。作業・フィールドワークを通して、自然災害と人、地域・社会との関わりを意識し、的確な情報発信を試み、防災・減災への関心を醸成する防災マップ作成に取り組む。	自然地理学、防災、自然災害、土地条件、ハザードマップ	2	2年			◎	○		○	○	

地域創造学類カリキュラムマップ(人と自然の共生プログラム専門科目)(令和4年度以降)

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される現代的諸課題に目を向け、それらを解決できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会、グローバルな共生社会、しなやかで折れない地域、将来にわたって持続発展する地域を実現するため、地域創造学の専門的知識と技術を修得し、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに意欲と責任をもって参加できる人材を、金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)に立脚して育成する。また、海外の地域創造情報を自ら英語で収集し発信できる人材を育成する。金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、次の学修成果を達成した者に学士(地域創造学)の学位を授与する。	
人と自然の共生プログラムの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための地域創造学の専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。
	調査・分析方法	地域の諸課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力と他者を繋げ合意形成に導くコーディネート能力を身につけている。
	思考・判断	地域や社会の諸問題を生活から制度・政策まで多角的に分析し考察できる。
④ 関心・意欲	関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。
⑤ 態度	態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	<p>地域創造学類は、学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり階層的な教育課程を編成し実施する。特に、地域課題科目群と地域創造科目群の選択的組み合わせによるプログラム制を導入し、学生の学修目標に沿った履修を実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域を知る基礎的な方法やリテラシーを学ぶ学類基礎科目群 2 地域とその諸問題を理解し、専門的知識を修得するための地域課題科目群 3 学生自身の将来像を意識させ、地域づくりのリーダーとしての素養を修得する地域創造科目群 4 地域を多面的に理解する調査や分析の方法を修得する演習及び実習科目群 5 多様な地域課題に対処する能力を高め、総合性を担保するための高年次の地域創造学特別演習 6 修得した知識と方法を統合的に発揮して自ら発見した地域課題に向かい合う卒業研究 <p>加えて、地域課題解決に実践的に取り組むための現地実習やインターンシップを配置し、フィールドワークによるプロジェクト学習や問題解決学習の手法を導入した実践的学修機会を用意する。また、学生の能動的学習を積極的に促すアクティブラーニングの手法を取り入れるとともに、外国語による地域創造に関する情報の収集と発信機会を提供する。</p>
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	単位数	学年	学習成果							
						理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35A11	生態系サービス基礎論	わが国の生物多様性と生態系サービスについて学ぶ。前半では、農村・都市・水域の生物多様性について概観し、後半では、里山・里海の歴史と現状を重点的に取り上げる。	生物多様性、生態系サービス、里山・里海	2	2年	○	◎	○			○	○	
35A12	河川政策論	河川や水に関する社会的な課題を理解すると同時に、それに関する公共政策の現状と課題、今後の方向性について理解する。	治水、利水、河川環境	1	2年	○	◎	◎				○	
35A13	ヘリテージ・インタープリテーション	自然・文化・歴史資源のインタープリテーションについて、目的・原則・成果を理解し、実例の質を評価し、初歩レベルの適用・実施技術を取得する。	Interpretation, resource protection, themes, audience engagement, and informal learning	2	3年		○	○		◎	○	○	○
35A14	環境と観光	観光における自然環境の維持や保全について知識を身につけるとともに、多様な視点から問題や対策を考えられるようになる。	Nature protection, protected areas, sustainable tourism, nature-based tourism	1	2年	◎	◎				◎	○	○
35A15	社会環境論Ⅰ	「自然の地理学」に関する理解を深めることで、自然と社会、人間と環境の関係についての基礎的な洞察力を身につける。	人新世、自然、環境、社会	1	2年	○	◎				◎	○	○
35A16	社会環境論Ⅱ	「自然の地理学」に関する理解を深めることで、自然と社会、人間と環境の関係についての応用的な洞察力を身につける。	人間、動物、生政治	1	2年	○	◎				◎	○	○
35A17	環境社会学	環境問題への社会的アプローチの基礎を学び、自然と社会の相互作用の視点から環境問題を理解し解決策を考える能力を身につける。	環境と社会、順応のプロセス、環境ガバナンス	2	2年	○	◎	◎	○	○	○	○	○
35A91	人と自然の共生プログラム専門演習	人と自然の共生領域における課題を指導教員の専門領域からのアプローチによって解決するための知識や技術、方法論を演習形式で学修する。卒業研究に向けて必要な知識・技能を修得する。	人と自然の共生、専門領域、方法論、演習	4	3年	○	◎	◎	◎	○	○	◎	
35A92	人と自然の共生プログラム専門実習	人と自然の共生領域における課題を指導教員の専門領域からのアプローチによって解決するための知識や技術、方法論を実習形式で学修する。卒業研究に向けて必要な知識・技能を修得する。	人と自然の共生、専門領域、方法論、実習	2	3年	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○
35A93	人と自然の共生プログラム共同演習	人と自然の共生における多様なアプローチを理解し、人と自然の共生プログラムにおける総合性を修得する。	人と自然の共生、総合的アプローチ、演習	1	3年	○	○	○	○	◎	◎	○	○
35402	地域創造学特別演習	卒業論文のテーマ設定や方法論、研究成果について討論し、地域創造学における専門性と総合性を学修する。	地域創造学のアプローチ、卒業研究、討論、発表会	1	3年	○	○	○	○	◎	◎	○	○

地域創造学類カリキュラムマップ(人と自然の共生プログラム専門科目)(令和4年度以降)

ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	地域創造学類では、現実の社会から提起される現代的諸課題に目を向け、それらを解決できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会、グローバルな共生社会、しなやかで折れない地域、将来にわたって持続発展する地域を実現するため、地域創造学の専門的知識と技術を修得し、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに意欲と責任をもって参加できる人材を、金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)に立脚して育成する。また、海外の地域創造情報を自ら英語で収集し発信できる人材を育成する。金沢大学<グローバル>スタンダード(KUGS)及び本学類が掲げる人材養成目標を踏まえ、次の学修成果を達成した者に学士(地域創造学)の学位を授与する。	
人と自然の共生プログラムの学習成果		
① 知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための地域創造学の専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。
② 技能・表現	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。
	調査・分析方法	地域の諸課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
③ 思考・判断	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力と他者を繋げ合意形成に導くコーディネーション能力を身につけている。
	④ 関心・意欲	地域や社会の諸問題を生活から制度・政策まで多角的に分析し考察できる。
⑤ 態度	④ 関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。
⑤ 態度	⑤ 態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成方針)	<p>地域創造学類は、学位授与方針に掲げる学修成果を達成するため、以下のとおり階層的な教育課程を編成し実施する。特に、地域課題科目群と地域創造科目群の選択的組み合わせによるプログラム制を導入し、学生の学修目標に沿った履修を実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域を知る基礎的な方法やリテラシーを学ぶ学類基礎科目群 2 地域とその諸問題を理解し、専門的知識を修得するための地域課題科目群 3 学生自身の将来像を意識させ、地域づくりのリーダーとしての素養を修得する地域創造科目群 4 地域を多面的に理解する調査や分析の方法を修得する演習及び実習科目群 5 多様な地域課題に対処する能力を高め、総合性を担保するための高年次の地域創造学特別演習 6 修得した知識と方法を統合的に発揮して自ら発見した地域課題に向かい合う卒業研究 <p>加えて、地域課題解決に実践的に取り組むための現地実習やインターンシップを配置し、フィールドワークによるプロジェクト学習や問題解決学習の手法を導入した実践的学修機会を用意する。また、学生の能動的学習を積極的に促すアクティブラーニングの手法を取り入れるとともに、外国語による地域創造に関する情報の収集と発信機会を提供する。</p>
------------------------------	---

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	単位数	学年	学習成果							
						理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35400	卒業演習	各自の関心・テーマを探究し卒業論文を執筆するための研究・実験・調査等を行うとともに、論文執筆の技法を身につける。	卒業論文、論文執筆の技法	4	4年	◎			◎	◎		◎	
35401	卒業研究	各自の関心・テーマを探究し大学での学習の集大成となる卒業論文を執筆する。	卒業論文	6	4年		◎	◎			◎		◎

開講されるクォーターは、年度ごとに公表される授業時間割表を参照してください。